

—新潟県—

新潟開港150周年の取組みについて

1. はじめに

平成31年1月に新潟港は開港150周年を迎える。これを契機に官民が連携して記念事業に取り組み、新潟の拠点性やまちづくりの推進を図る。

2. 開港150周年の機運醸成の取組みなど

平成29年3月に、官公庁、経済・市民・港湾・観光等の団体により記念事業実行委員会（事務局：新潟市）が設立された。県は同委員会に参画し、新潟市に協力して一体的に取組みを進めている。

平成30年6月までの記念事業の機運醸成期間においては、ロゴマークの決定や、著名人が参加する応援団「TEAM Nii port」の結成（キャプテン：小林幸子さん）、プレシンポジウムの開催、新潟市中心部でのフラッグ掲揚など、情報発信や広報に取り組んできた。

併せて、県独自の取組みとして、新たな交流拠点として整備された万代島多目的広場の物揚場改修や、信濃川左岸の緑地整備に向けた取組みを進めている。



黄色いリボンは、灯台のサーチライトが未来を照らし、人々を導くフラッグになるとともに、ヒト、モノ、情報が集まり、「出会う」ことによって新しさが生まれ、更新される広がり表現しています。その上に、Niigataの「N」、新しい＝Newの「N」が浮かび上がります。

さらに、信濃川、阿賀野川、日本海を水色の三本の線で表現し、碇マークとともに港らしさを表現しました。

新潟開港150周年記念ロゴマーク

3. 記念事業コア期間における取組み

平成30年7月から平成31年12月の記念事業コア期間においては、記念事業のキックオフイベントとして、7月14日から29日に、日本最大級の海の祭典である「海フェスタにいがた」を開催した。その後も、近県の子供達に海に親んでもらう体験交流や、砕氷艦「しらせ」の一般公開など多様なイベントを予定するとともに、平成31年1月に「記念式典」を行うこととしている。

県においては、信濃川左岸の緑地整備に引き続き取り組み、また、まちづくりの主体となる新潟市とともに、万代島地区の賑わい創出につながる将来ビジョンを策定することとしている。



海フェスタにいがたでの護衛艦「ひゅうが」一般公開

4. おわりに

開港150周年を新しい新潟を切り拓く機会として位置付け、歴史や文化を承継・発展させ、地域の誇りを醸成するとともに、拠点性の向上やまちづくりを推進し、交流人口拡大や地域活性化につなげていくことが重要である。



新潟開港150周年記念事業実行委員会設立総会の様子

この機会に、多くの方々から「みなとまち新潟」に親しんでいただけるよう、新潟市等と連携して、新潟港の魅力を積極的にアピールしていく。

また、開港150周年を一過性のイベントに終わらせてしまうのではなく、今後の新潟港の発展に資するよう取り組んでいく。

（新潟県 交通政策局 港湾整備課）